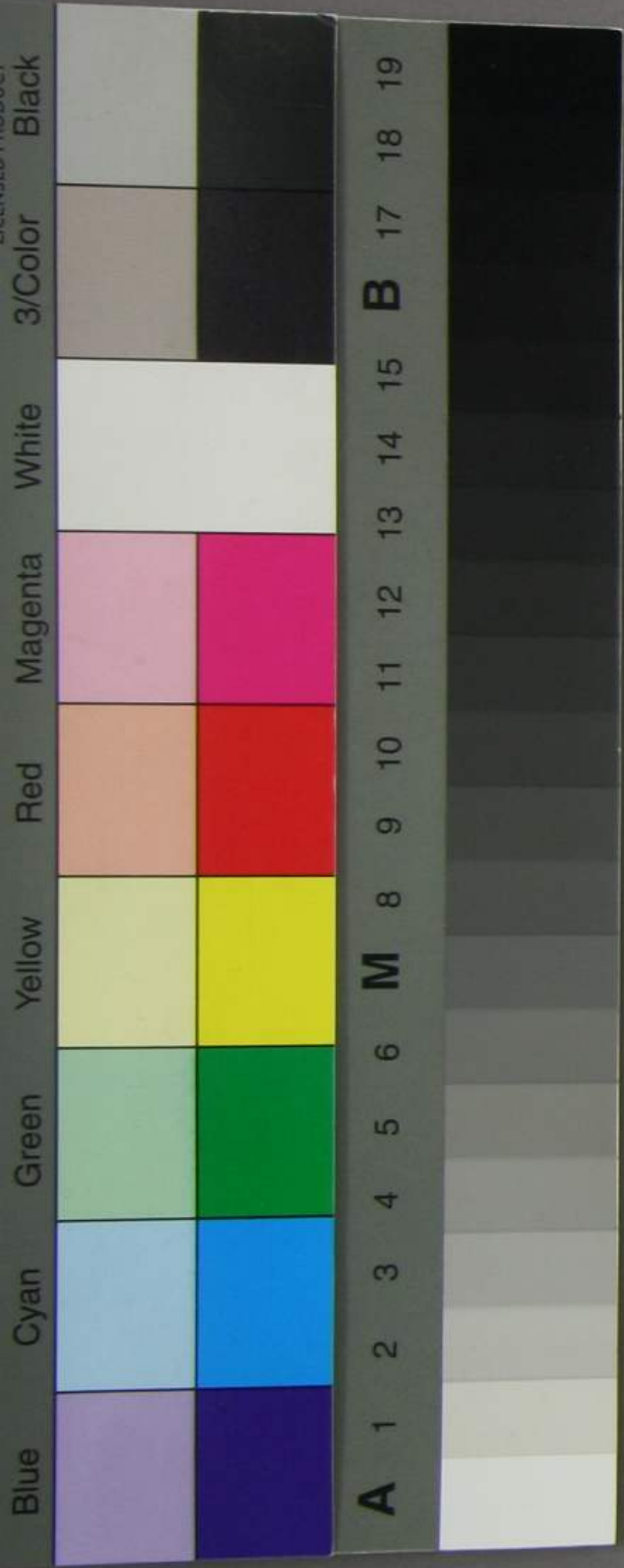


414  
A 4227



進呈書局奏上被成下、度時右、昨日由  
 畧陳述其通、施政上至急、要之在、  
 了、其裁可相成、殊以本、月二十二、日、頃、  
 二、布告相成、殊、樣、致、之、度、將、又、本、業、  
 分、趣、二、閣、之、內、閣、各、部、二、於、今、亦、曾、疑、了、  
 廉、以、亦、查、其、了、辨、明、之、儀、文、部、權、大、  
 書記官島田三郎、同、少、書記官、久、保、  
 田、讓、二、申、付、置、其、其、其、兩、官、一、向、々、詳、議、  
 相、成、不、且、本、業、亦、採、用、之、上、之、志、院、議、  
 之、二、被、附、在、第、二、右、兩、書、記、官、ヲ、以、テ、  
 閣、委、負、二、被、命、其、樣、相、成、其、了、其、業、  
 二、

大正  
 天  
 限  
 候  
 曆  
 奇  
 贈  
 1220



奉<sub>レ</sub>旨<sub>ニ</sub>依<sub>リ</sub>決<sub>シ</sub>此<sub>レ</sub>段<sub>上</sub>半<sub>及</sub>之<sub>決</sub>也

明治十三年十二月九日 文部卿河野敏篤

大政大臣三條實美殿

天正十一年四月  
大藏卿寄贈

教育令改正案ヲ上奏スルノ議

維新偃武ノ後政府大ニ文教ヲ興シ越ニ明治五年泰西ノ法度ヲ折衷シ新シニ学制ヲ布ケリ其事草創ニ属スルヲ以テ尤雜叙無リ事態ニ觀聽スルモノナキニアラズト虽学校ノ設置天下ニ遍リ人民就学ノ途爰ニ洞開セシモノハ一ニ此法ノ致ス所ニアラズンバアラズ爾來五七年世態大ニ改コリ百般ノ制度又隨テ變スルヲ以テ学制漸ク其權衡ヲ失セリ是レ明治十二年九月四十七条ノ新法ヲ定メ以テ旧学制ニ代ル所以ナリ蓋シ此改正ニ當リ旧法ノ危雜ヲ芟リ過度ノ制限ヲ除クニ急ナルヨリ其弊ノ及ブ所往々放任ス可ラザルモノヲ併セテ放任スルニ至レ

文部省

り其然ル所以ノ故ヲ考フルニ亦偶然ニアラザルナリ夫レ学制ノ頒布ニ當リ執事者意ヲ成功ニ鏡クシ枝舎ヲ壮大ニシ外觀ヲ裝飾スルノ事往々ニシテ免レズ是ニ於テカ學問ノ益未ダ顯ハレズシテ人民之ヲ厭フノ念先ツ生ス議者其弊ノ因ル所ヲ深考セス後ヲニ罪ヲ學事ノ干涉ニ歸シテ之ヲ尤ム而シテ教育今此際ニ成レルヲ以テ為メニ其精神ヲ謬マルモ蓋シ寡シトセズ臣ヲ以テ之ヲ觀ルニ前日ノ弊タル学制ノ主義ニアラズシテ施行ノ宜キヲ失フアリテ干涉ノ過度ニアラズシテ干涉ノ途轍ヲ過ツヨレリ何ニトヤレバ前日ノ干涉スル所ニ唯學校ノ設立費用ノ募集等專ラ外部ノ事ニ止コリ授

業ノ得失ヲ考ヘ費途ノ緩急ヲ察スルガ如キ内  
部ノ事ニ至テハ其意ヲ經ル蓋シ寡ケレバナリ  
而シテ議者一切ニ干渉制度ノ上ニ歸シ及勤  
ノ勞普通教育トモ亦干渉ス可ラズ云フニ  
至ル過テリト謂フヘシ猶ホ醫師ノ治ヲ過ツハ  
醫術ノ咎ニアラズ而シテ医ノ不良ナルカ為ニ  
遂ニ醫術ヲ廢セントスルカ如シ豈理ナランヤ  
蓋シ普通教育ハ國民ノ品位ヲ上下スルノカ  
リ苟モ國ヲシテ開明ニ民ヲシテ良且慧ナラシ  
メントスルハ教育ノ普及ニアラザレバ不可ナ  
リ而シテ政府之ヲ督勵セズシテ其普及ヲ望ム  
殆ト河清ノ俟ツ可ラザルガ如シ夫ノ英國ノ如  
キ之ヲ歐洲大陸諸國ニ比スレバ頗ル教育ヲ放

任スルモノトス而シテ全國人民ノ無智ナル所  
ニ識者ノ慨リ所トナリ世論漸ク于涉ノ已ム可  
ラザルヲ覺知シ遂ニ一千八百三十九年ニ及テ  
樞密院中ニ教育局ヲ設ケ若于ノ費用議定セシ  
ヨリ年ニ其權限ヲ擴充シ費額ヲ増益シ一千八  
百七十八年ノ如キハ補助金二百十四萬九千二  
百〇八<sup>〇</sup>ポンドノ巨額ヲ議院ニ於テ議定スルニ  
至レリ夫レ政治ニ于涉ヲ事トセズ又教育ノ一  
事ニ至テハ歐洲大陸ノ諸國ニ數等ヲ讓レルノ  
英國ニシテ其措置尚ホ此ノ若シ其他ノ類推ス  
ヘキナリ蓋シ其政体ノ如何ニ関セス苟モ文明  
ヲ以テ稱セラル、國ニシテ普通教育ノ于涉ヲ  
以テ政府ノ務メトセザルハナシ是レ豈普通教育

ハ其國運ニ関スル最大ナル故ニアラズヤ我  
國ノ如キ学政ヲ施シテヨリ幾カニ數年未ダ其  
効績ヲ見サルニ於テハ深ク怪ムニ足ラズ但其  
施行ノ間ニ當リ僅々ノ弊ヲ見ルカ為ニ其精  
神ヲ挫シ又皮相論者ノ説ニ謬ラレテ此主義ヲ  
採ムルニ至テハ何レノ日ニカ此民ト共ニ文明  
ノ域ニ進ムトヲ得ンヤ是レ臣ガ今日ニ當リ教  
育ノ主義ヲ定ムニテ希圖シテ已マズ教育令ノ  
改正案ヲ進奏スル所ナリ或ハ曰ン客年教育  
令ヲ制定シテ墨痕未タ乾カス今又之ヲ改正セ  
ハ信ヲ國民ニ失フヲ如何セント是レ亦事ヲ解  
セザルノ言ノミ苟モ法令ノ國家人民ニ不利ナ  
ルヲ知ラバ隨テ之ヲ改正スル又何ノ憚ル所カ

是レアラシヤ若シ既ニ其不利ナルヲ覺ルモ敢  
テ之ヲ改メス茲萬年ヲ涉ル者ハ彼ノ不可ナル  
ヲ知テ難ヲ攘ミ来年ヲ竣テ止メントスル者ト  
其異果シテ何クニ在ルヤ抑亦自家ノ便ヲ計ル  
ニ厚フシテ國家ヲ念フニ薄キ者ト謂ハザル可  
ラズ是レ臣ガ今日改正案ヲ進奏スルニ於テ敢  
テ遲疑セザル所以ナリ抑現行教育令ノ高等諸  
学校ニ於ル幾カニ其名称ヲ掲ケルニ止マリ之  
ガ制規ヲ立ルノ条ハ全ク缺如タリ臣ノ意將ニ  
之ヲ補テ其体ヲ具ヘシメントスルニ在リ但普通  
教育ノ衰頹ヲ挽回スルニ焦眉ノ急ニ屬スルヲ  
以テ今回ノ改正ハ專ラ小学ニ係ルノ事ヲ主ト  
シテ其他ニ及ハス謹テ此ニ本案ヲ進ムルニ當

リ此事由ヲ一言シテ以テ豫メ他日改正ノ端緒  
ニ供ス伏シテ請フ陛下ノ此ニ照察セ一ヲ臣  
敏謙恐惶頓首謹言

布告按

第 号

明治十二年即第四十号ヲ以テ布告候  
教育令左之通改正削除追加候條  
此旨布告候事

年号 年月日

改正按

第二條 学校ハ小學校中學校大學校師範學校  
專門學校職工學校其他各種ノ學校トス

理由 學術ノ生産力ニ関スルヤ大ナリト  
雖モ直接ニ其力ヲ現ジ又廣ク社會ニ實業  
ヲ起サシメ專門學校ニ竝レテ學校類中ノ  
要部ヲ占ルモノハ職工學校ヲ以テ最ナリ  
トス而シテ教育令中此名稱ナキハ頗ル闕  
典ニ屬ス是レ本條改正ノ要旨ナリ

第三條 小學校ハ普通教育ヲ児童ニ授クル所

16

ニシテ其学科ヲ讀書習字算術地理歴史修身  
等ノ初步トス土地ノ情況ニ隨ヒテ畵唱歌  
體操等ヲ加ヘ又物理生理博物<sup>等</sup>大意ヲ加フ  
殊ニ女子ノ為ニハ裁縫等ノ科ヲ設クヘシ  
但巳ムヲ得サル場合ニ於テハ讀書習字算  
術地理歴史修身ノ中地理歴史ヲ減スルコ  
トヲ得

理由 現行ノ<sup>法律</sup>ニ於テハ讀書習字算術  
地理歴史修身ノ六科ヲ以テ小學必須ノ學  
科<sup>ト</sup>為ス其一ヲ缺ケハ則チ小學ニアラザル

ナリ普通教育ニアラザルナリ夫レ地理  
講シテ本邦ノ<sup>地理</sup>勢ト其萬國ニ對スル關係  
トヲ辨シ歴史ヲ學ビテ國家ノ沿革ト及事  
ノ變遷トヲ考フルハ人ト成リテ社會ノ負  
ニ列スル者ノ知ラザル可カラザル緊要ノ  
事ナリト雖モ之ヲ修身ノ彙論ヲ明ニシ及  
讀書習字算術ノ用ヲ言語ニ齊フスル者  
比スレバ其緩急固ヨリ廷庭ヲリ而シテ學  
齡八年間此等六科ノ學ヲ修ムレバ其習熟  
ノ觀ルベキモノ無キニアラズト雖モ地



都鄙ノ別アリ人ニ貧富ノ異アリ且今日人  
民ノ生計社會ノ程度ヲ熟視スルニ全國ノ  
兒童ヲ擧ゲテ盡リ八年ノ就學ヲ畢ラシメ  
ントスルハ勢必不行ハルベカラザルナリ  
唯八年就學ノ行ハルベカラザルノミナラ  
ズ更ニ之ヲ短縮シテ六年トスルモ亦未ダ  
必スシモ能ハザルナリ且其就學ノ期愈縮  
マレバ其諸科ヲ修ムルヤ愈難シトス故ニ  
其六科ヲ併セ授ケテ以テ共ニ習熟セザラ  
シヨリ寧ロ其一ニヲ減ジテ以テ專ラ習ハ

所ニ熟セシムルノ實用ニ適スルニ如カザ  
ルナリ是レ此改正案ニ但書ヲ加ヘ地理歴  
史二科ノ如キハ事情ニ隨ヒテ或ハ修メ或  
ハ修メザルヲ得セシメ以テ學期ニ長縮<sup>短</sup>ア  
ルノ條ト相照シテ以テ其宜キヲ得セシム  
ル所以ナリ

第八條 職工學校ハ諸般ノ工藝ヲ授ケル所トス  
以上數條掲ケル所何ノ學校ヲ論セス各人  
皆之ヲ設置スルコトヲ得ヘシ  
本條改正ノ理由ハ第二條ノ下ニ掲ケルヲ

以テ此ニ贅セズ

第九條 各町村ハ府知事縣令ノ指示ニ從ヒ獨立或ハ聯合シテ其學齡兒童ヲ教育スルニ足ルベキ一箇若リハ數箇ノ小學校ヲ設置スベシ

但本々小學校ニ代ルキ私立小學校アリテ府知事縣令ノ認可ヲ經タルトキハ別ニ設置セザルモ其旨ナシ

理由 現行ノ令ニ於テハ町村ヲシテ公立小學校ヲ建設スルノ義務ヲ負ハシムルニ止リ而シテ之ヲ設クルノ制限ニ至リテハ則チアルト無シ是レニ由リテ生ズルノ弊一ニシテ足ラズ蓋寒鄉僻陬人口疎少ノ地ニ

シテ每村毎町必ず學校ヲ設リルトキハ費用給セズ校舍整ハズ授業學ラズ合格ノ教員ヲ聘スル能ハズ適當ノ器具備フル能ハズ之ガ為メニ兒童ノ心性ヲ傷ヒ健康ヲ害スル等ノ弊枚擧スルニ遑アラズ此クノ如キハ則チ其町村既ニ學校ヲ設置スルノ名義アルヲ以テ其負フ所ノ義務ヲ盡セルカ如ク見エルト雖モ其實効ヲ考フルトキハ猶之ヲ設ケザルト異ナルトキナリ又其數町或ハ數村聯合シテ設立スル者ニ於テ之

ガ適當ノ制限ナキヲ以テ三四里若クハ五  
六里ノ間僅ニ一校ヲ設立スルアリ或ハ未  
ダ甚ダ廣遠ナラザルモ山河ノ阻隔スルモ  
ノヲ促セテ一學校區ヲ立ツルアリ是レ皆  
學齡兒童ノ通學ニ耐フル能ハザル所ナリ  
或ハ人口稠密ニシテ生計ノ度甚ダ低カラ  
ザルモ其人民未ダ學業ノ利ヲ曉ラザルガ  
故ニ學校ノ為ニ資財ヲ出スヲ好マズ總  
ニ狹隘ノ校舍ヲ起シテ以テ其義務ヲ免  
ルルノ口實ト爲シ而シテ其學舎狹隘ナル

ヲ以テ學齡兒童ヲ容ルルニ足ラズ其レヲ  
テ多ク不學ニ終ラシムルアリ是レ皆學校  
設置ニ制限ナキノ致ス所ニアラスンバア  
ラザルナリ而シテ其弊猶未ダ此ニ止ラザ  
ル者アリ夫レ學制頒布以來數町村力ヲ保  
セテ學校ヲ設立シ其規模略觀ルベキ者往  
往之レアリト雖モ去歲教育令發行ニ至リ  
學校分合ノ事ヲ擧ゲテ之ヲ町村ニ屬シテ  
ヨリ其學校<sup>敷地</sup>屬スル町村外ノ者ハ之ヲ視  
ルル自己町村ニ関セザル者ノ如ク校費ヲ

出サズ児童ヲ遣ラズシテ連リニ分離ヲ主  
張スル者アリ甚キハ曩ニ協議上ヨリ積  
立テタル資金ヲ分割シテ各自ニ學校ヲ設  
立セシトスル者アリ而シテ其弊ノ窮極ス  
ル所遂ニ合資ヲ以テ設立セル整備ノ學校  
ヲ毀クテ各自ガノ學校ヲ創起シ其費用ハ  
前日ニ倍シ而シテ却リテ學事ヲシテ振ハ  
サルニ終ラシム是レ等ノ如キモ現今ノ令  
ニ於テハ之ヲ禁ズル能ハサルナリ是レ今  
回ノ改正ニ於テ「児童ヲ教育スルニ足ルベ  
ク

キ云々ノ字句ヲ加ヘテ其設立ノ目的ヲ明  
ニシ又其制限アルノ精神ヲ明示シ「府知事  
縣令ノ指示」云々ノ文字ヲ加ヘテ其果シテ  
児童ヲ教育スルニ足ルヤ否ヤヲ監スルノ  
權ヲ府知事縣令ニ付シ以テ其合ス  
ルノ弊ヲ制セントス其但書ニ於テ「本文ハ  
學校ニ代ルベキ」ノ文字ヲ以テ「公益タルベ  
キ」ノ句ニ換フルモノハ蓋シ公益ノ文字々  
ル意義稍不定ニ屬スルヲ以テナリ

第十條 各町村ハ學務ヲ幹理セシムンガ為ニ

小學校ヲ設置スル獨立或ハ聯合ノ區域ニ學  
務委員ヲ置キ戸長ヲ以テ其員ニ加フベシ  
但人員ノ多寡給料ノ有無及其額ハ區町村  
會之ヲ評決シ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ  
理由 本條ノ改正案ニ三個ノ要点アリ學  
務委員ヲ設置スルノ地ヲ定ムル一ナリ戸  
長ヲ以テ其員中ニ加フルニナリ區町村會  
ヲシテ委員ノ數及ビ其給料ヲ評決セシメ  
又府知事縣令ヲシテ之ヲ認可セシムル三  
ナリ夫レ現行ノ令ニ於テハ唯學務委員ヲ

置クベシト云フニ止マリテ其之ヲ何レハ  
所ニ置クトニ言ヒ及バズ則テ學校ヲ設置  
維持スルノ一區域ニ置クベキ乎抑町村ノ  
聯合シテ之ヲ設置維持スルモ猶毎町村ニ  
置カガル可ラザル乎各地ニ於テハ之ヲ明  
知スル能ハザルヲ以テ之ガ説明ヲ請フモ  
ノ往々之レアリ是レ改正文中「小學校ヲ設  
置スル」云々ノ文字ヲ掲グル所以ナリ夫レ  
戸長ノ職タル町村公共ノ事務ヲ統グルヲ  
以テ夫ノ衛生委員ノ如キモ亦之ヲ助ケテ

以テ其事ヲ行ヘリ然ルヲ學事ニ於テハ獨  
リ學務委員專ラ之ヲ掌理スルトキハ其施  
為ノ力薄弱ナルノコトナラズ或ハ事務重複  
ノ煩ヲ起シ或ハ彼此扞格ノ意ヲ生ズルノ  
憂アリ且ツ各地方ノ景況ヲ通觀スルニ大  
凡戸長ト為ル者ハ其町村ニ名望アル者又  
ハ村幹衆ニ超ユル者又ハ旧家ニシテ郷閭  
ニ尊重セラルル者等ニシテ固ヨリ其町村  
人民ノ上流ニ居ル者ナルガ故ニ其言自ラ  
行ハレ易キノ勢アリ故ニ之ヲシテ學務委

員ト共ニ事ニ從ハシメバ其學事ニ裨益アリ  
ル蓋シ細小ニアラザルナリ帝是ノミナラ  
ズ區町村會起リテヨリ以來町村公共費ノ  
豫算ヲ立テ、之ヲ議場ニ辯明スルハ則チ  
戸長ノ主トシテ任スル所ナリ而學校ノ費  
用亦其一ニ居レリ蓋シ現行教育令第十條  
第十二條ニ由レバ町村ノ學費ヲ議會ニ辯  
明スルハ學務委員ノ務メタラザルベカラ  
ズ而シテ實際ニ於テハ却リテ之ヲ戸長ノ  
為ス所ニ歸セリ其事務ノ相交渉シテ分離

し難キ既ニ此クノ若クレバ則チ令中明文  
ヲ掲ゲテ以テ其職務ヲ定メザル可ラス是  
レ戸長ヲ以テ委員ノ中ニ加フル所以ナリ  
抑学務委員ノ職々ル常ニ町村ノ学事ヲ幹  
理ス既ニ此職アリ則チ其適當ノ給料ナカ  
ル可ラス蓋之アルベクシテ而シテ之ナキ  
トキハ委員タル者實ニ其職任ノ責ナキ者  
ハ如シ然ラバ則チ必ズ之ヲ與フルトセン  
乎或ハ富豪有為ノ人ニシテ此撰ニ當リ身  
公益ニ任ズルノ榮譽ヲ悦ビ給料ヲ受クル

ヲ膺トセザルアリ故ニ此ヲ與フルト否ガ  
ルトハ土地ノ情况及ビ委員其人ノ地位ニ  
由リテ之ヲ斟酌セザル可ラズ必ズ之が一  
定ノ制度ヲ立テ、以テ之ヲ規スルヲ得ス  
是レ其給料ヲ町村會ノ議ニ付スルヲ要ス  
ル所以ナリ然リト雖モ之ヲ與フベクシテ  
而シテ喫ヘズ遂ニ委員ヲシテ無報ノ勞ニ  
服セシメ因リテ以テ学事ヲ振ハザルニ至  
ラレタルハ亦往々見ル所ノ通弊ナリ故ニ  
專ラ之ヲ町村ニ委セズ必ズ府知事縣令ノ

認可ヲ經セシメテ以テ一方ニ偏倚セザラ  
シトシテ期ス是レ本案改正ノ大旨ナリ

第十一條 学務委員ハ町村人民其定員ノ二倍若  
リハ三倍ヲ薦擧シ府知事縣令其中ニ就テ之  
ヲ選任スヘシ

但薦擧ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ  
文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

理由 現行ノ令ニ於テ学務委員ハ町村人  
民ノ撰擧タルベシトナリ而シテ其撰擧セ  
ル者ハ直々ニ委員ト爲ルヲ得ル乎抑刑餘

ノ人ノ若キ公共ノ信憑ヲ托スルノ性質ヲ  
缺クモノニ於テハ地方官法律ニ因リテ附  
與セラレタル監督ノ權(教育令第十二條)  
因リテ之ヲ改撰セシムルヲ得ル乎或ハ一  
且委員ハ爲ルノ後ト雖モ其人職任ニ適セ  
ザルニ於テハ地方官之ヲ改撰セシムルヲ  
得ル乎是等ノ諸点皆令中ニ明掲セザルヲ  
以テ實施ノ際疑義ヲ生ズル者ナキニアラ  
ズ若シ撰擧セララル者ハ直々ニ委員トナ  
リ如何ノ事由アルモ地方官之ヲ進退スル



ノカナシト解款セバ則チ是ヨリ生ズルノ  
弊実ニ言フニ勝ハサルモノアリ蓋シ町村  
学事ノ奉ルト否ハルトハ学務委員其人ヲ  
得ルト否ガルトニ申レリ何レトナレバ兒  
童ノ就学ヲ促シ学資ノ募集ヲ計リ学校ノ  
維持ヲカソ不就学ノ事故ヲ查スル等ハ地  
方官郡區長ノ之ヲ管理スルアリト雖モ躬  
莫町村ニ住シ親ク之ガ事情ヲ識ルハ即チ  
学務委員ノ深切ニシテ手ヲ下シ易キニ如  
ガレバナリ然レバ人民未ダ学問ノ利ヲ曉

ヲズ劇場祭禮ノ為メニ千金ヲ捐ツルモ要  
校ノ為メニ千金ヲ出スヲ悦バズ俳優力士  
ノ為メニ款待ヲ盡スモ教員ノ為メニ敬意  
ヲ表スルヲ厭フガ如キ未ダ普通学ノ人生  
ニ必需ナルヲ知ラズ就学ハ社會ノ公務タ  
ルヲ辨ゼザルノ地方ニ於テハ学務委員其  
人ヲ得テ兒童就学ノ督促ニ遣ハシテ恐レ  
勉メテ文筆ヲ解セズ学事ヲ辦ヤザルノ人  
ヲ奉ケ甚キハ刑餘ノ人ヲ撰バントスル者  
アルニ至ル故ニ其制限ノ設ケ豈今日ニ已

ムヲ得ンヤ然リト雖モ委負ハ人民ノ委託  
ヲ受ケテ町村公共ノ義務ヲ代理スル者ナ  
ルヲ以テ人民ノ之ヲ推薦スルヲ得ルハ実  
ニ町村自治ノ精神ニ出ヅル者ナレハ固ヨ  
リ其疆界ヲ侵スバキニ非ズ唯府知事縣令  
ヲシテ其監督ノ權ヲ此際ニ實行セレンヲ  
要ス然レモ其法タル推薦人ヲ得ガレニ當  
リ之ヲ拒ミテ再撰セシムルガハキハ未ダ  
其宜キヲ得タリト云フ可カラズ何ントナ  
レバ其事タル唯被薦者ノ名譽ヲ毀テ薦者

ノ煩ヲ重マルノミナラズ其レヲシテ自ラ  
不快ノ念ヲ懷カレノ以テ官民乖離ノ端ヲ  
開クニ庶幾ケレバナリ故ニ當初其負ノ二  
倍若クハ三倍ヲ推薦セシメ其中ニ就キテ  
選任スルヲ得ル一改正案ノ若クナラレバ  
ハ則チ一時ニシテ二回若クハ三回ノ薦挙  
ヲ行フト其効ヲ同クセントス此クノ如ク  
バ則チ官民共ニ偏重ノ弊生キテ得レ夫ノ  
薦挙ノ制限ノ若キ尙文部首ニ於テ之ヲ定  
メ國中ノ廣キ鄙鄙ノ隔タレルヲ首セス畫

一ノ制度ヲ以テ之ヲ規セシトセバ或ハ事情ニ適セズシテ扞格行ハレガルノ地ナキヲ保ツ可ラス故ニ府知事縣令ヲシテ先ツ其案ヲ起草セシメ而シテ後其區々ニ分岐シ東隅西陬之ガ權衡ヲ失フナガラシメンガ為メ且其事ノ重要ナルガ為メ之ヲシテ文部卿ノ認可ヲ請ヒシメントス是レ本條改正ノ要旨ナリ

第十四條 學齡兒童ヲ就學セシムルハ父母後見人等ノ責任タルヘシ

第十五條 父母後見人等ハ其學齡兒童ノ小學校三箇年ノ課程ヲ卒業サル間已ニ得サル事故アルニアラサレハ少クトモ毎年十六週日以上就學セシメサルヘカラス又小學校三箇年ノ課程ヲ卒業タル後ト雖モ相當ノ理由アルニアラサレハ毎年就學セシメサルヘカラス

但就學督責ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ  
理由 現行ノ令ニ於テハ事故アリテ就學

セシノガル者ハ其事由ヲ学務委員ニ陳述  
スベシトアリ而シテ其事故トハ如何ナル  
モノヲ指スヤ一定ノ釈義ナク又行政規則  
ヲ以テ之ヲ定ムルハトテ言ハズ是レ見  
重ノ就学ヲ以テ父母後見人ニ負ハシムル  
ノ義ト協ハガルナリ何ントナレバ一方ニ  
於テハ法律上ノ責ヲ父母後見人ニ負課シ  
一方ニ於テハ其負課ヲ免ル、ト免レガル  
トノ要領ヲ定メガレバナリ況ンヤ其之ヲ  
学務委員ニ陳述スルニ止マルニ於テヤ

且第十四條ニ於テハ十六箇月ヲ以テ児童  
就学ノ最短期トシ此期ヲ過ケルハ就学  
ノ責ニナレトセリ夫レ児童六歳ニシテ小  
学ニ入り終ニ一年四箇月ヲ経テ修ムル所  
ノ普通学ハ成丁ノ後ニ至リ果シテ其身ヲ  
益スルニ足ルベキ平假令改正案第三條ノ  
如ク地理歴史ノ二科ヲ除キ簡易ノ科ノ三  
ヲ終メシムルモ尚且其用ニ適セガルト知  
ルナリ既ニ其用ニ適セズ安カク之ヲ以テ責  
免ル、ノ定限トスルヲ得ンヤ況ンヤ

唯十六箇月云コト言フトキハ假令父母々  
ル者財計餘リテリ児童ヲシテ全備ノ小学  
ヲ修メシムルニ足ルニ雖モ已レ學問ヲ悦  
バザレハ則チ児童ノ就學十六箇月ヲ以テ  
我が義務畢レリト爲シ直今ニ之ヲシテ退  
學セシムルモ既ニ法律ノ之ヲ許スアレハ  
何ニ因リテ之ヲ拒止スルコトヲ得ンヤ而シ  
テ児童ハ固ヨリ智慮鮮キガ故ニ遊戯百端  
唯其課業無キヲ悦ビ後ニ歲月ヲ流リ其人  
ト成ルニ及ビ始メテ自ラ悔イ是ニ至リテ

又母ヲ恨ムルモ亦何ノ益カアラシ故ニ此  
ノ如キ場合ニ於テハ社會ノ集力即チ政府  
ナル者此等私人ノ利害ヲ推定シテ其間ニ  
干渉シ幼者ノ權利ヲ保護スルハ勢ノ已ム  
可カラザルモノトス何レトナレバ児童々  
ル者未知已レノ利害ヲ判別スルノ能力無  
ク而シテ父母又之ヲ賊フニ方リテハ則チ  
政府ヲ除クノ外又之ヲ擁護スル者アラザ  
レバナリ蓋シ律眼ノ幼者ヲ見ルヤ成テノ  
人ニ異ナリ夫レ幼者ノ職業時間ヲ制限ス

ル事ノ如キ以テ見ルベシ故ニ雇主ト又母  
トノ約束ヲ以テ幼者ヲ工場ニ使セシムル  
ニ當リ又母ハ雇銀ノ多キヲ貪リ雇主ハ使  
用時間ノ長キヲ利シ而シテ児童脆弱ノ身  
ヲ使スル常度ニ過ギシムルモ幼者自ラ其  
身ニ巨害アルヲ曉ラズ其人ト為ルニ及ビ  
テ身躰枯瘁竟ニ用ニ耐ヘガルニ至ル此ノ  
如キハ少年自衛ノ力無ク又母又之ヲ賊フ  
モノニシテ政府ヲ除クノ外能ク之ヲ防ク  
者アルナシ是レ泰西文明ノ國ニ於テ幼者

勞彼ノ時間ヲ制限スルヲ以テ社會ノ幸福  
ヲ保スル必要ノ法律トスル所以ナリ而シ  
テ普通教育ノ責ヲ父母ニ課スルモ亦主義  
ヲ此理ニ拘クスルトキハ則テ決シテ之ヲ  
緩漫ニ付ス可カラザルナリ故ニ今回ノ改  
正案ニ於テハ已ムヲ得ガルノ事故アルニ  
アラガレバ児童ヲ就学セシメガル可カラ  
ザルノ義ヲ定メ且其最短期十六箇月ヲ改  
メテ三箇年トスルモノハ三年ノ時月ヲ費  
ヤシテ以テ小学最低ノ課程ヲ全ク修ムル

ヲ得バ稍其終身ヲ裨益スルニ及ブベキカ  
為メナリ而シテ土地ノ事情職業ノ状態ニ  
隨ヒ三箇年連續シテ學ニ就ク能ハガルモ  
ノハ毎年時ニ後ヒテ就學ニ三箇年ノ課程  
ヲ卒ルニ至リテ始メテ其責ヲ免レシム其  
毎年十六週ヲ以テ限トスル亦偶然ニアラ  
ザルナリ夫レ小学ノ開校ヲ毎年三十二週  
ト定ムルトキハ三箇年ニシテ九十六週ト  
リ學齡八箇年間毎年就學スルト十六週ト  
ルトキハ通計一百二十八週ナリ是レ三箇

年連續シテ以テ就學スル者ヨリ其時ヲ増  
スト三十二週即チ一年ノ開校期ヲ加フル  
ニ同じ其之ヲ増加スル所以ノ昔ハ夫ノ連  
續シテ以テ學バモノハ終始學問ノ念ヲ離  
レバト雖モ毎年十六週間學バモノハ一年  
強半他ノ業ニ從事シテ學問ノ念殆ト断ス  
其念ヲ離レガハ昔ハ業進カニ成リ易ク其  
念断スルモノハ遺忘ノ患ハ免レ難シ故ニ  
通計一年ノ開校期ニ當ルノ時ヲ加ヘテ以  
テ之ヲ補フノニ抑法律ハ其既ニ三年ノ課

程ヲ卒フルモノニ於テ一切就学ヲ望マ  
ガルバキ半日ク否ガルナリ夫レ三年ニシ  
テ業ヲ卒フルハ小学最低ノ課程ノニ豈之  
ヲ以テ望レリトス<sup>ト</sup>謂ハシヤ故ニ既レ之ヲ  
卒フル者ト雖モ生計餘アリ且職業ノ為ス  
バキ無キモノハ之ヲシテ学齡間就学セシ  
メン<sup>ト</sup>テ要ス然リト雖モ人ニ貧富アリ体  
ニ強弱アリ又初メヨリ就学スル能ハガル  
アリ或ハ三年就学スル能ハガルアリ故ニ  
已レテ得ガルノ事故アル者ハ全リ其責ヲ

免セシメハル可ラス既ニ三年ノ業ヲ卒ハ  
テ特殊ノ学ヲ修メントスル者アリ職業工  
藝ニ従事セシトスル者アリ其相當ノ理由  
アルハ学齡間普通学ニ就カガルモ亦可ナ  
リ而シテ之ヲ実施スルニ當リ如何ナルモ  
ノカ是レ不得已ノ事故トスバキ如何ナル  
モノカ是レ相當ノ理由トサスバキ其大綱  
ヲ豫定スル<sup>ト</sup>無ケレバ寛嚴人ニ因リテ異  
ニシテ法律ノ精神ヲ破リ人民ノ苦害ト為  
ルノ弊ナキヲ保ツ能ハス是レ就学督促ノ



規則ヲ要スル所以ニシテ府知事縣令之ヲ  
起草シ文部卿ノ認可ヲ經セシムルハ其理  
由第十一條但書ノ説明ニ同シ是レ兩條改  
正ノ要旨ナリ

第十六條

小學校ノ学期ハ三箇年以上八箇年

以下タルベク授業日數ハ毎年三十二週日以  
上タルヘシ

但授業時間ハ一日三時ヨリサカラス六時  
ヨリ多カラサルモノトス

理申 学期ト就学ノ期限トハ互ニ交渉シ

テ分離ス可ラザルモノトス何ントナレバ  
其比較相協ハガハハ錯亂シテ行フ可ラザ  
レバナリ是レ本條最短ノ学期四箇年ヲ改  
メテ三箇年トシ一歳ノ授業四ヶ月以上ヲ  
改メテ三十二週日以上トナシ第十四條ト  
照應セシムル所以ナリ且現行ノ令ニ於テ  
ハ一日ノ授業時間ニ制限ナキガ故ニ總カ  
ニ一時間ニ滿タザルノ授業ヲ以テ法律要  
スル所ノ開校日數ニ充ツルモノアリ是ノ  
如キハ其若クハテ実ナキモノトス或ハ連

成ノ功ヲ負リテ一日八時間餘ニ及バモノ  
アリ是ノ如キハ児童ノ心性體質ニ適セズ  
後ラニ倦急ヲ生ゼレテ終ニ益ナキノニ  
ナラズ却テ健康ヲ損ズルヲ害アリ是レ本  
條ノ但書ニ於テ其制限ヲ設ケタル所以ナ  
リ

### 第十七條

學齡児童ヲ學校ニ入レズ又巡回授  
業ニ依ラズレテ別ニ普通教育ヲ授ケントス  
ルモノハ郡區長ノ認可ヲ經ヘシ

但郡區長ハ児童ノ學業ヲ其町村ノ小學校

ニ於テ試験セシムヘシ

理由 児童ヲレテ學校ニ入ラシメ若クハ  
巡回授業ニ就カレタル所以ノモノハ他ニ  
アラズ其主眼唯普通教育ヲ受レルニア  
ルノニ故ニ此等ノ手段ヲ除クノ外別ニ普  
通教育ヲ受レムルノ途アル例ハバ家庭ニ  
於テ児童ヲ教育スル者ノ如キハ亦之ヲ許  
サバシムヲ得ズ然リト雖モ之ヲ以テ口ニ籍  
キ以テ就學ノ責ヲ塞カントスルモノハ如  
キ或ハ其典キヲ保ス可ラズ是ノ如キハ則

ナ豈至当ノ監制ヲ為サハルヲ得ンヤ而シ  
テ現行ノ令ニハ此事ヲ缺ケリ是レ今回ノ  
改正ニ於テ初ニハ郡區長ノ認可ヲ經セシ  
メ又時々試験ヲ為シテ以テ其効ヲ監スル  
所以ナリ

第十八條

小学校ヲ設置スルノ資力ニ乏クシ

テ巡回授業ノ方法ヲ設ケ普通教育ヲ児童ニ  
授ケントスル所村ハ府知事縣令ノ認可ヲ經  
ハシ

理由 現行ノ令タル學校ヲ設置スルノ資

力ニ乏キ地方ニ於テハ教員巡回ノ方法ヲ  
設ケテ児童ニ教授セシムルコトヲ得ハシ  
ト云フニ止マリ其巡回授業ヲ為スヲ得ル  
ニハ何等ノ手續ヲ以テスバキヲ説ズ是レ  
所村ニ學校ヲ設置スルノ責ヲ負シルノ  
義ニ違フモノナリ何レハ所村ノ人民  
學校ヲ設クルヲ悦バサルモノ我地方ハ學  
校ヲ立ルノ資力ニ乏シト色言レ口ヲ巡回  
授業ニ藉テ僅カニ一二ノ教員ニ數十所村  
ノ児童ヲ托シ授業ノ實終ニ萃ラザルニ至

ルモ曾テ巡回検査ニ一定ノ制度ナキ以上  
ハ官又之ヲ如何トモスル能ハカシバナリ  
且ツ其学校ヲ設置スルノ資力ニ乏キト否  
トハ町村自ラ之ヲ判定スルヲ得ル乎地方  
官之ヲ判定スル乎法律ニ依ラテモ之ニ言  
及スルナシ抑亦不備ノ文ト謂フベシ是レ  
今回ノ改正ニ於テ「府知事縣令」云々ノ句ヲ  
増加セル所以ニシテ地方ノ情况ニヨリテ  
之ヲ設クルルヲ得セシムルモ亦後ヲ之ヲ口  
ニ籍ヲ苟モ其責ヲ免ル、者無ラレメント

欲スルナリ  
**第二十條** 公立学校幼稚園書籍館等ノ設置廢  
止其府縣立ニ係ルモノハ文部卿ノ認可ヲ經  
ヘリ其所村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認  
可ヲ經ヘシ  
理由 現行ノ令々レ公立学校ヲ設置廢止  
ハ府知事縣令ノ認可ヲ經セシムルモノト  
ス抑公立学校トハ官立私立ノ中間ニ位ス  
ルニ種ノ学校ヲ指テ云フモノナリ其府縣  
ニ於テ地方稅其他府知事縣令管スレ所ノ

此賞種ヲ以テ設立スルモノ之ヲ府縣立ト云  
ヒ其町村人民ノ協力ヲ以テ設立スルモノ  
之ヲ町村立ト云フ夫レ府縣立ニ於テハ府  
知事縣令怡モ其校主タルノ位地ニ在ルモ  
ノ、如シ而シテ現行ノ令ハ都テハ公立ヲ  
概括シテ之ヲ府知事縣令ノ認可スルモノ  
トセリ然ラバ則チ府縣立ニ於テハ府知事  
縣令自ラ之ヲ設立シ自ラ之ヲ認可スベシ  
ト謂フカ如キモノニシテ其理ニ協ハガル  
復々辨ズルニ足ラザルナリ是レ今回ノ改

正ニ於テハ同一公立ノ名称中ニ就キテ彼  
此ヲ甄別シ其甲ハ之ヲシテ文部卿ノ認可  
ヲ經セシメシハ之ヲシテ府知事縣令ノ認  
可ヲ經セシム此ノ差クニシテ後始メテ備  
次アリト謂フベシ且單ニ學校ヲ奉テ其他  
教育上須要ノ局部ニ及バザルハ法律ノ不  
備ナルニ由リ今幼稚園書籍館等ノ文字ヲ  
増加シテ以テ其意ヲ補ヘリ

第二十一條 私立學校幼稚園書籍館等ノ設置  
ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘク其廢止ハ府知

文部省

事縣令ニ開申スヘシ

但公立小學校ニ代用スル私立小學校ノ廢止ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

理由 現行ノ令ニ於テハ私立學校ノ設立ヲ府知事縣令ニ開申セシムルニ止マルニ由テ生ズルノ弊亦斷カラズ夫レ學校ハ世間普通ノ營業ト同カラズ人ノ心性ヲ陶冶シ智徳ヲ左右スルノ要具タリ故ニ其法宜キヲ得シバ倍ヲ化レ智ヲ開ケノ益アリト雖モ其宜キヲ失ヘバ則チ小ニシテハ人

ヲ戕ナヒ大ニシテハ俗ヲ壞ルノ害アリ其レ然リ故ニ學術ナキノ人ハ師ト為ス可カラズ素行修マラザル人ハ師ト為ス可カラズ然ルニ現行法ノ如ク學校ノ設立ヲ開申ニ止ムルトキハ學術ナキノ人ニシテ此利器ヲ妄用スルヲ得ルノミナラズ刑罰ヲ人ト雖モ亦抗顏師位ニ居ルリヲ得シトス夫レ人ノ身体ヲ左右スル者ハ醫師ナリ人ノ心性ヲ左右スル者ハ教師ナリ此要點ニ至ラハ公私ノ別ニ因テ變セザルモノナリ而

シテ医師ノ業ヲ管ムヤ官其性格ヲ鑒ニ教  
師ノ校ヲ開リヤ其目為ニ任ス豈人ノ心性  
ニ身体ニ如カズト謂ハシヤ是レ今回ノ改  
正ニ於テ其設立ヲ認可セシムル所以ナリ  
抑其廢止ニ至テハ此ニ異ニシテ官此ノ関  
スルノ權ナレトス何ントナレバ其設立ヤ  
將ナニ為スアラントスルモノニシテ事積  
極ニ屬ス是レ世ヲ益スト雖モ亦之ヲ害ス  
ルノ力アリ是レ官ノ認可ヲ要スル固ヨリ  
ナリト雖モ其廢止ヤ之ニ反シテ將ナニ為ス

ナカラレトスルモノニシテ事消極ニ屬ス  
是レ世ニ益セズト雖モ亦之ヲ害スルノ力  
無シトス政府ハ私人ノ害ヲ為スヲ過ルル  
ノ任アリト雖モ其レヲ益ヲ為サシム  
ルヲ責ムルノ力ナシ是レ其校主ト意ニ教  
任セガル可ラガル所以ナリ獨リ公立学校  
ニ代用スルノ小學校ニ於テハ之ニ異ナ  
リ其校アルガ為メニ公立小學校ヲ設クル  
ノ責ヲ町村ニ免シレバ則チ此私立  
ルヤ皆モ公立ト同一ノ權利ヲ有セリ故ニ

律眼ノ之ヲ見ル公立ノモノニ同カラザル  
ヲ得ズ況ンヤ此校ニシテ一旦廃止セラル  
、ニ於テハ其町村ノ児童直々ニ就学ノ途  
ヲ失フニ於テヤ故ニ之ヲ廃止セザルヲ  
得ザルノ場合ニ於テハ町村ヲシテ別ニ小  
学校ヲ設レシメザル可カラズ則チ官ニ於テ其  
廃止ヲ豫知スルニアラガレシム不可ナル所  
以ナリ是レ本條改正ノ大旨ナリ

第二十二條 町村立私立学校幼稚園書籍館等  
設置廢立ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ

文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第二十三條 小学校ノ教則ハ文部卿頒布スル  
所ヲ綱領ニ基キ府知事縣令土地ノ情状ヲ量  
リテ之ヲ編制シ文部卿ノ認可ヲ經テ管内ニ  
施行スヘシ

但府知事縣令施行スル所ノ教則ニ準據シ  
難キ場合アリテ之ヲ斟酌増減セントシ府  
知事縣令之ヲ許可セントスルトキハ其意  
見ヲ付シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ  
理由 現行ノ令タル公立学校ノ教則ハ文



部卿ノ認可ヲ經私立學校ノ教則ハ府知事  
縣令ニ開申セシム此區別タル是ヲ謂レト  
キモノトス政府ノ學校ニ於ル筆ニ公私ノ  
別ニ擬テ監督ノ途ヲ異ニスベキニアラス  
必ズ其教學ノ性質ニ就テ之ヲ處スベキ理  
義アルノ三何ツヤ夫ノ専門ニ藝職業等ノ  
學校タル各ニ其特殊ノ性質アリテ特殊ノ  
習術ヲ要スルヲ以テ官ノ利トスル所民ノ  
不利トスル所タルモ亦知ル可ラズ民ノ見  
ル所官ノ監ミル所ニ於ルト謂フ可ラズ諸

ニ所謂老農老圃ニ如ズト即チ此理ニ同じ  
故ニ此類ノモノニ於テハ必ズ官其教則ノ  
細目ニ干渉シテ取裁スルヲ要セザルナリ  
獨リ小學校ニ至テハ是レモ異ナリ其人ヤ  
學齡児童ニシテ其學ヤ普通教育ナリ其性  
質既ニ定マレリ其目的固ヨリ一ナリ其教  
則モ亦此性質ト此目的トニ合セザル可カ  
ラズ若シ其私立ニ係ルノ故ヲ以テ此性質  
ニ協ザルモ亦可ナリト謂ハシカ小學校ノ名  
稱何ニ因リテカ定マラン及シヤ其公立私

立ノ別ナク小学ニ入ルトキハ則チ就学ノ  
責ヲ尽スモノト法律ノ之ヲ認ムルニ於テ  
キヤ故ニ今回ノ改正案ニ於テハ其小学ニ  
關スルノ條ハ公報ヲ問ハズ律眼悉ク同一  
ノ看ヲ做セリ此理ヲ推シテ之ヲ察スルニ  
現行令ノ第ニ十二條第ニ十三條ノ區別々  
ル干渉スベキニ干渉セズ而シテ干渉スベ  
カラガルニ干渉スルモノニシテ大ニ其偏  
次ヲ失フモノタルヲ灼知スベキナリ其小  
学校ニアラガル諸種学校ノ教則細目ハ官

之ヲ取裁スルヲ要セザルノ理ハ既ニ之ヲ  
明カセリ然レバ則チ全ク之ヲ放置スベキ  
乎曰ク否其設立ヲ認可スルト否トハ畧一  
定ノ限界ナナル可カレド唯其學問ノ自由ヲ  
掣肘ス可カラザルノニ学校設置ノ目的講  
学ノ要領教員ノ履歷学校維持ノ方法如  
キ皆官ノ知ラザル可カラザルモノナリ其  
廢止ニ於ルモ亦其理申テ知ルニアラガレ  
バ認可スルト否トノ標準ヲ立ツルニ申テ  
シ是レ其要領ヲ定ムル規則ヲ要スル所以

ナリ其ノ学ニ於ル固ヨリ一定ノ主義ニ基  
キテ雖モ全国ノ廣キ都鄙ノ隔タル其細目  
ニ至リテハ固ヨリ取捨セザル可ラズ是レ  
文部卿之レガ綱領ヲ定メ府知事縣令等  
テ土地ノ情状ヲ量リ教則ヲ編制セシムル  
所以ナリ而シテ一地方中又之ヲ取捨セガ  
ル可カラザルニ於テハ更ニ斟酌増減シテ  
以テ其事情ニ應ズルヲ得セシレ但其範圍  
ヲ超越シ普通教育ノ大旨ニ違ハカラシカ  
為メニ官ノ認可ヲ經テ之ヲ行フヲ得セシ

ム是レ第ニ十二條第ニ十三條及四ノ要畧  
ナリ

第三十三條

各府縣ハ小学校教員ヲ養成セシ

カ為ニ師範学校ヲ設置スルニ

理由 現行令ノ本條ニ於ケル各府縣ニ於

テハ便宜ニ隨テ公立師範学校ヲ設置スベ

シトアリ既ニ便宜ト云フトキハ之ヲ設ケ

ハルモ亦可ナルカ如シ夫レ小学ノ整否ハ

教員ノ良否ニ関シ教員ノ良否ハ師範学校

ノ整否ニ原セリ師範学校ノ小学ニ於ケル

ヤ必ス消長ヲ同クスル者ニシテ師範学校  
衰ヘテ小学校ノ熾リ盛ナルハ各州ノ実態  
ニ徴シテ未ダ之レアラハルナリ知照普通  
学校ヲ督勵シテヨリ今ニ及ンデ各府縣師範  
学校ノ設ナキ者アラズニ雖モ其年々盛ル  
尚ホ浅ク教員ニシテ師範学科ヲ卒業シタ  
ル者ハ全国ニ通シテ十中ノ一二過ギズ他  
ハ皆旧時ノ学ヲ講ジテ教授ノ術ヲ知ラガ  
ル者ナリ且偏境僻地ニ至テハ実ニ良師ニ  
乏シキヲ以テ大抵僧侶修験習字師ノ徒

ヤシク字ヲ識リ書ヲ讀ム者ノ終カニ其負  
ニ充ルルニ至ルニ至ラズハ其職トシテ其一  
原因タラズンバアラス故ニ今ヨリ以來師  
範生徒ノ教養ニハ最モ力ヲ致シバニル可カ  
ズ而シテ小学ノ設ケ人民必為ノ責タル以  
上ニ師範学校ノ設ケ亦堂百モ便宜ニ任ス  
ベキモノナランヤ是レ則チ便宜云々ノ句  
ヲ刪ル所以ニシテハ学校教員ヲ養成センガ  
為ニノ句ヲ加フルハ其目的ヲ明示セント  
スルニアルナリ

第三十八條

小學校教員ハ官立公立師範學校

ノ卒業證書ヲ有スルモノトス

但本文師範學校ノ卒業證書ヲ有セスト雖

モ府知事縣令ヨリ教員免許狀ヲ得タルモ

ノハ其府縣ニ於テ教員タルモ妨ケナシ

理由 現行令ノ本條ニ於ケル單ニ師範學

校云々トアリテ其官公知ノ別ヲ言ハズ是

レ播制<sup>改</sup>不備ノ私立師範學校ヲ起シ簡易ノ

學科ヲ教授シテ卒業證書ヲ與ヘ之ヲ受ル

ノ人ヲシテ教員タルヲ得セシメントス

或ハ曰シ私立ト雖モ其整備スル者ニ於テ

ハ亦可ナラズヤト然リト雖モ是レ實際上

必ス無キノ事ナリ師範學校ノ性質タル之

ヲ教ユル者因テ以テ利益ヲ占ルノ餘地ナ

シ公共ノ負擔ニ所トナリテ初メテ維持

スルヲ得ル者トス故ニ私立ニ係ルモノハ

必ズ其費用ヲ減首シテ其播制<sup>改</sup>不備ヲラガ

ルヲ得ス是レ私立師範學校ノ望ヲ屬ス

可也<sup>改</sup>ナ<sup>改</sup>ル所以ニシテ既ニ已ニ不備ナルヲ

ヲ豫知スレハ豈之ヲ以テ官公立ト同一視

スルヲ得ベケンヤ故ニ今回ノ改正案ニ於  
テハ官立公立ノ四字ヲ加ヘタリ且現行令  
ノ但書タル「教員ニ相應セル学力アル云々  
トアリ然ルニ其相應セルト判定スルハ果  
シテ難ノ職タルヲ詳ニセズ故ニ之ヲ改  
正シテ其義ヲ明ニセリ

削除按

- 第二十八條 公立七学校ヲ補助セシメテ爲メ文  
部郡々々毎半補助金ヲ各府縣ニ配付スルニシ
- 第二十九條 府知事縣令ハ文部卿ヨリ領取セ  
ル補助金ヲ各公立七学校ニ配付スルニシ
- 第三十條 前年中授業四箇月ニ滿ルルヨリ小  
学校ニ補助金ヲ配付セザルニシ
- 第三十一條 私立七学校ニテハ府知事縣  
令ニ於テ其町村人民ノ公益タルトシテ  
ハ七ニ補助金ヲ配付スルニ得ヘシ

第三十二條

教員巡回ノ方法ヲ以テ教授セシ

ムルコト一箇年四箇月以上ニ至ルノ町村ニ

ハ補助金ヲ配付スルコトヲ得ハシ

第三十六條

公立師範学校ハ整備ヲ要センカ

為メ文部卿ヨリ補助金ヲ各府縣ニ配付スル

コトヲルヘシ

理由 文部省ニ於テ普通教育ヲ奨励セン

カ為メ是レマテ年々定額ノ中ニ就キテ右

地方ニ補助金ヲ配付セリ而シテ其額年々

同一ナラズ其始メニ方リテ七十万圓ヲ出

セシテアリト雖モ本省ノ定額減サセルコ

随ヒテ漸ク其數ヲ殺キ十四年度ニ至リテ

ハ定額更ニ減ズルヲ以テ既ニ補助金ヲ出

スノ餘裕アルヲナシ蓋シ補助金ノ配付々

ル普通教育ヲ必課スルノ制度ニ於テハ相

伴ヒテ必ズ無カル可カラザルモノトス何

ントナレバ土地ノ肥瘦ト人民ノ貧富トヲ

問ハズ児童ノ就学学校ノ設立ヲ督促スル

以上ハ政府モ亦其幾分ヲ支出シテ以テ其

カヲ助ケ其志ヲ励マサバニ可カラザレバ

ナリ而シテ此補助金々々出ス所ヨリレテ  
之レヲ見レバ巨額ナリト雖モ各地方ノ学  
校ニ配付スルニ及ビテハ一枚ノ得ル所僅  
ニ五六圓ニ過ギズ然ラバ則チ之ヲ存スル  
ト廢ナルト實際ニ於テ全ク影響ナキカ曰  
ク否夫レ教育令ノ發行アリテヨリ政府ハ  
教育ヲ督促セズシテ人民ノ自爲ニ放任セ  
リト誤解セルモノ鮮カラズ則チ今回ノ改  
正タル大ニ此類弊ヲ挽回センガ爲メ一層  
督促ヲ嚴ニセルガ故ニ唐從來ノ補助金ヲ

廢ス可カラザルノミナラズ更ニ幾分増  
加シテ以テ此精神ヲ助ケザルヲ得かん者  
ノ如シ然リト雖モ從來ノ配布ハ實際ニ益  
スルノ力甚ガ乏キヲ以テ更ニ此金額ヲ轉  
用シ奨励ノ方法ヲ變更セザル可カズ然ル  
ニ事之ニ及ビ一方ニ於テハ督促ヲ嚴ニシ  
一方ニ於テハ單ニ補助金ヲ廢ス故ニ今回  
改正案ヲ行ハント欲スルニ方リ此一車ニ  
至リテハ美ニ遺憾ナキ能ハサルナリ然リ  
ト雖モ既ニ之ガ餘裕アル無ケレバ則チ之



ヲ廢セザルヲ得ズ故ニ是等數條ノ刪除ハ  
固ヨリ其望ハ所ニアラズ則チ已ムヲ得ガ  
ルニ出ツルノミ但別ニ督勵法ノ考案アル  
アリト雖モ事施設ノ務メニ屬シ是等數條  
刪<sup>除</sup>理由ニ關セザルヲ以テ敢テ此ニ贅セ  
ズ

追加按

第四十八條 町村立学校ノ教員ハ學務委員ノ

申請ニ因リ府知事縣令之ヲ任免スヘシ

第四十九條 町村立小学校教員ノ俸額ハ府知

事縣令之ヲ規定シテ文部卿ニ開申スヘシ

第五十條 品行不正ナルモノハ教員タルコト

ヲ得ズ

理由 教育ノ目的ヲ達スルト否トハ實ニ

教員其人ヲ得ルト否トニ係リ教員其人ヲ

得ルト否トハ其待遇ノ厚キト否トニ由ル

学制ノ精神弛緩シテヨリ人民漸ク教育ヲ  
輕視シ教員ノ學業居心如何リ向ハス唯給  
料ノ寡キト其人ト爲リノ制シ易キトテ是  
レ視ルノミ夫レ重賞ノ下ニ能者出デ功名  
ノ内ニ材者集マル年々教員タル者ハ利益  
ナク又地位ナシ此ノ如クニシテ材能ノ士  
ヲ得テ教員タラシメントスルハ尚ホ本  
縁ヲ魚ヲ求ルカゴトキナリ故ニ有爲ノ人ハ  
教員トナルヲ屑トセズ其一時教員ト爲ル  
者モ胸中自ラ平カナル能ハズ幾許ナラズ

シテ去テ他ニ之リ其循々トシテ職ヲ守ル  
者ハ人者テ事ニ勝ヘカナルモノ、如ク是  
ニ於テカ教員ノ地位日ニ低下ニ趣キ學事  
漸ク荒ミ學校ノ信用日ニ衰フ其弊亦極マ  
ルト謂フベキナリ是レ此等ノ三條ヲ追加  
スル所以ニシテ其府知事縣令ヲシテ此ヲ  
任免セシロルハ其職ヲ重カルニ在テ其俸  
額ヲ規定セシロルハ寧ニ其給料ヲ減サヤ  
カクシロルナリ而シテ教員ノ職任重ク給  
料モ亦其職ニ應ズル以上ニ隨テ之ヲ責ム

毛布嚴ナラハル可ラズ是レ品行正シカラ  
カシ者ヲシテ教員ノ名ヲ冒ヤサシムルハ  
法律ニ於テ禁ズルヲ明ホスル所以ナリ

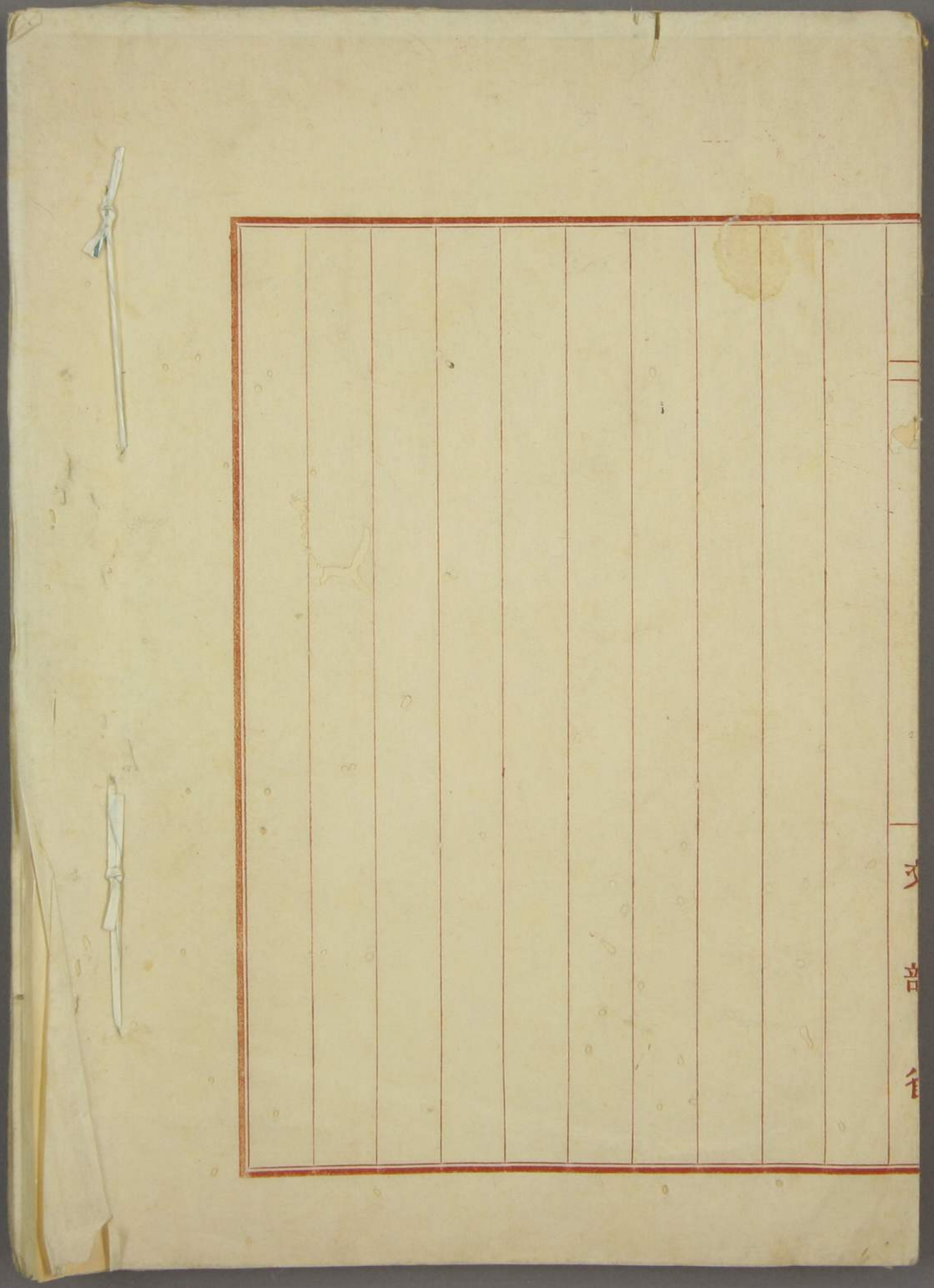
第五十一條 各府縣ハ土地ノ情況ニ隨ヒ中学  
校ヲ設置シ又専門学校職工学校等ヲ設置ス  
ヘシ

理由 各府縣大抵中学校等ノ設ケアラハ  
ルハナシ而シテ府縣會起リテヨリ往々之  
ヲ無用視シ動モスレバ廢止セントスルニ  
傾クノ勢アリ公平ノ眼光ヲ放ツテ之ヲ觀

ルニ地方ノ中学校等現時悉ク整備シテ又  
豫スバキモノナシト謂フバカラズト雖モ  
之ヲ改良スルヲ勉メズ中道ニシテ廢止  
スルハ特ニ學事ノ退歩ヲ促スノミナラズ  
其土地人民ノ損失モ亦細ナラズト謂フバ  
シ蓋シ各地方ニ於テ學齡兒童普通學科ヲ  
卒業スルハ後更ニ高等ノ學科ヲ修メシト  
欲ムル者アルモ若シ此等學校ノ設置アラ  
ハルトキハ更ニ進シテ高上ノ學ニ就クノ  
道ナク已ムヲ得ズ達ノ途ヲ負フテ都下ニ

遊シトスレバ旧地ニ在ラ学ブニ比スルニ  
其費耗スル所ハ往々之ニ倍セントスルヤ  
既ニ設立セル学校ニシテ俄然トシテ之ヲ  
廢止スレハ曩ニ注入セル所ノ費ホハ一朝  
迄費ニ歸シテ止マントスルニ於テコトヤ是  
レ今回本條ヲ設ケテ豫メ其損害ヲ未然ニ  
杜ガント欲スル所以ナリ然リト雖モ今日  
ニ當リ其未ダ中学ノ設ケナキ地方ニ向テ  
強ヒテ之ヲ誅セザル可カラザルモノトス  
ルニハアラズ是レ即チ土地ノ情状ニ隨ヒ

云々ト注意ノ言アル所以ナリ



文  
譜  
卷